

第 23 回諜報研究会プログラム (インテリジェンス研究所・早稲田大学 20 世紀メディア研究所共催)

日程：2018 年 6 月 30 日 (土)

第 I 部：

インテリジェンス・ツアー 蔽之館 (東中野駅) から、陸軍憲兵学校、陸軍中野学校 (中野駅)

へ

時間・場所：12:30 JR 東中野駅西口改札前集合

解説：山本 武利 (最近東中野駅近くで所在の突きとめられた蔽之館については第 II 部で山本が詳述)

案内：正田 浩由

第 II 部：

3 代のインテリジェンス機関——誕生期の成果と課題

会場：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ (早稲田大学エクステンションセンター中野校) 1 階 116 教室

司会：河野通之 (NPO 法人インテリジェンス研究所理事)

1、明治前期 14:00～15:30

村上 勝彦 (東京経済大学名誉教授、元東京経済大学学長)

「明治前期の陸軍参謀本部のインテリジェンス活動——主に中国、朝鮮での活動と地図作成——」
誕生直後の時期に参謀本部がまとめた地図など兵要地誌について報告者は 40 年前にその詳細を実証した。これは記念碑的なインテリジェンス研究の業績で、今も乗り越えられていない。今回の報告はその後の研究成果が反映されたものとなろう。

2、昭和 10 年代 15:30～16:20

山本 武利 (早稲田大学・一橋大学名誉教授、NPO 法人インテリジェンス研究所理事長)

「蔽之館の開校とラジオ傍受活動」

パールハーバー直前に日系 2 世の俊英数十人が外務省によって日本に呼び寄せられた。秘かに東中野の施設蔽之館 (へいしかん) で国際情勢を学んだ彼らは VOA 対日ラジオを傍受するだけでなく、米国内の中波放送多数をキャッチして外務省や参謀本部の対米工作に寄与した。戦後彼らが結成したラヂオプレスは現在も北朝鮮放送傍受で日本のインテリジェンス活動に大きく寄与している。

3、昭和戦後期 16:30～17:40

岸 俊光 (毎日新聞オピニオングループ部長委員)

「内閣調査室の知識人人脈——1960 年代の「官製シンクタンク」機能に着目して」

秘かに日本版 CIA を目指して 1952 年に誕生した内閣調査室は多彩な人材を吸収した冷戦期の独立日本のインテリジェンス機関であった。最近報告者がまとめた博士論文の成果が簡潔に紹介されよう。